

キルギス共和国の食生活：民族料理と民族間の比較

○水谷令子（鈴鹿国際大）・末田香里（名古屋女大）

【目的】 キルギス共和国における民族料理の種類・伝承のされ方などを調べた。また、国民の多数を占めるキルギス人とロシア人について民族料理・日常の食事・独立後の食生活の変化などを比較した。

【方法】 記入法と面接によるアンケート調査によったが、聞き取り・観察・文献も参考にした。調査地は首都ビシュケクが主であるが地方都市でも行った。調査時期は1997年5-8月である。

【結果】 民族料理としてあげられた料理で多かったのは、プロフ、ベシュバルマク、マンティ、ラグマンで、ベシュバルマク以外は両民族に共通であった。キルギス人に多く、ロシア人に少なかった民族料理はベシュバルマク、ショルゴ、チャクチャク、オロモであり、ロシア人の方に多かったのはペリメニ、ボルシチであった。民族料理を食べるのは家庭が最も多く、続いてパーティであった。民族料理を食べる機会は独立後も過半数で変わらなかった。民族料理を全く作れない人は13%で、50%以上は上手に作る事が出来ると回答した。プロフ、ベシュバルマク、マンティ、ラグマンは40%以上が作れる民族料理である。これらの料理を教えてもらうのは女性の親族（祖母や母親）が多いが、父親や友人の場合もあった。学校で民族料理を学んだものは皆無であった。キルギス人にパン、お茶、ジュース、乳製品を摂取する人が多かった。昼食に肉料理が多かったのもキルギス人であった。ロシア人はコーヒーとカーシャの摂取が多かった。ロシア人に独立後食生活は豊かで便利になったと答えたものが多かったが、日常食の内容はキルギス人と大差なかった。